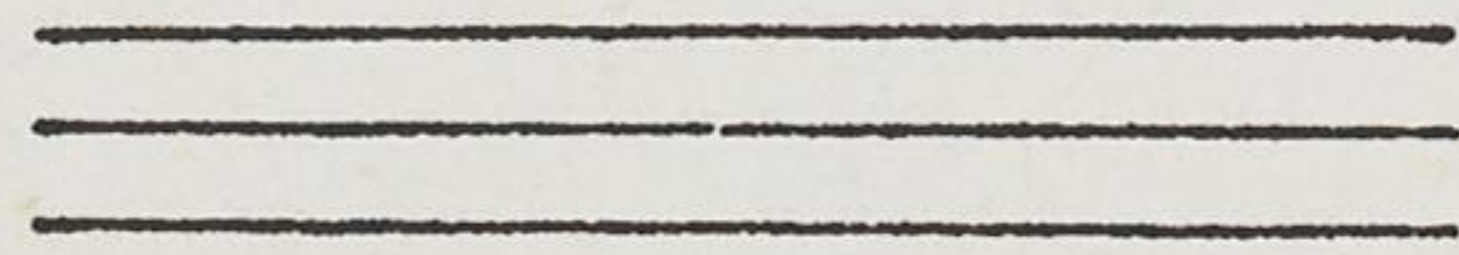


現代文學讀本

下



現代文學讀本下

目次

一	大死一番	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	一
二	希臘思潮	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	九
三	日本文學研究の新意義	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	三〇
四	松の月(俳句)	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	三三
五	現代文學思潮概観	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	三六
六	花鳥風月(和歌)	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	四〇
七	國民の抱負	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	四三
八	凡人淨土	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	四六
九	社會と感激	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	五〇

一〇	歴史と自然と人生	………	三
一一	雲いろく (和歌)	………	六
一二	東西自然詩觀	………	八
一三	東洋の詩趣	………	九
一四	俳句評話	………	一五
一五	故郷	………	一六
一六	死と永生	………	一五
一七	愛兒の死	………	二九
一八	愚禿親鸞	………	三九
一九	苔みづ (和歌)	………	四二
二〇	佛教とキリスト教	………	四四
二一	知己難	………	四四
二三	川柳	………	六〇

二三	徒然草の著者	………	一六三
二四	蕪村と一茶 (俳句)	………	一七一
二五	美術に現れたる日本國民性	………	一七三
二六	邦人の性格	………	一八四
二七	ハンニバル	………	一八七
二八	耳の人と目の人	………	一九五
二九	大佛の頭 (俳句)	………	二〇五
三〇	自覺の徹底	………	二〇六
三一	知と愛	………	二二
三二	幾山河 (和歌)	………	二八
三三	勇猛精進	………	三三

た。彼はいざり寄りながら、再び老僧の手を取つた。二人は、其處に凡てを忘れて、感激の涙に何時迄も何時迄も浸つて居たのであつた。

(恩讐の彼方に)

現代文學讀本 下 終

千九百三十二年五月 編纂  
千九百三十二年七月 發行

布哇ホノル、市  
編纂兼 發行 者  
本派本願寺學務部

大日本京都市壬生川通五條下  
印刷所 同 朋 舍

“MADE IN JAPAN”